

# 多様化する ワークスタイル

～個々のライフスタイルとの共存とは～

DELレポート No. 47

2024年12月  
作成者:Y.T

 脱炭素経営ドットコム  
By DENKOSHA

8

働きがいの  
経済成長も



11

住み続けられる  
まちづくりを



12

つくる責任  
つかう責任



「DELレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。



# 所定外労働時間の平均は20年以上変化なしの現実

## ■ 日本の長時間労働について

- 日本の総労働時間は減っているが、正規雇用従業員(正社員)の平均残業時間は20年以上削減されておらず、長時間労働による労災の請求件数は20年前の約40倍にもなっている
- アルバイト、パートタイム、派遣社員などの増加により正社員への業務が集中してしまっている。また、通勤等の移動時間や共働きによる仕事と家庭との両立が求められ、隠れ残業を行う社員が増加している。社内制度や古い職場風土も原因の1つ
- 過労死や労災の増加により、企業イメージダウン及び社員の士気も落ち、生産性が上がらない。休職が増えると採用費、人件費は上がっていく

## ■ 就業形態別年間総実労働時間及びパートタイム労働者比率の推移



出典:厚生労働省

## ■ 日々の通勤、『つらい』と感じる？

**つらい通勤時間を  
過ごしている人は、  
仕事への  
モチベーションが  
20.3ポイントも低い**

職場の居心地 WEB 調査

出典: PR TIMES(プラス株式会社ファニチャーカンパニー)

多様な働き方は時代の要請なのか？

# 様々なスタイルのテレワークがある

## ■ 仕事=出社だけではない！ 働き方の多様化

- テレワークやフレックスタイム制などの働き方が普及している中で、ノマドワーク・ハイブリッドワーク・ABWなどの新しい働き方も普及が進み、時間や場所を問わず個人の仕事内容や裁量にあった働き方をすることで、生産性の向上や残業時間削減につながる

**テレワーク** 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方

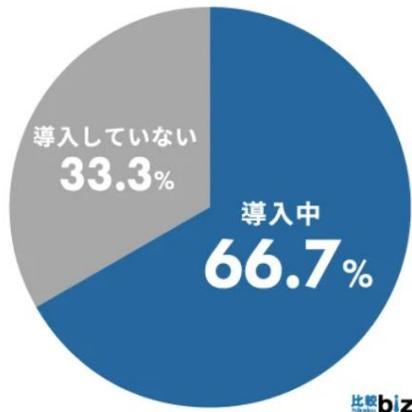
**ノマドワーク** 遊牧民(ノマド)と働く人(ワーカー)を組み合わせた言葉。仕事の場所を変えながら働く方法(フリーランスも含まれる)

**ハイブリッドワーク** オフィスワークとリモートワークを組み合わせた柔軟な働き方(ワークプレイスの選択肢が複数ある)

**ABW** その時々の仕事の内容に合わせて、働く場所を自由に選択する働き方(オフィス内でのワーキングスペース活用も含まれる)

## ■ BtoB企業のテレワーク導入状況

企業のテレワーク導入状況 (n=84)



出典:PR TIMES(株式会社ワズマインド)

## ■ ”仕事”と”遊び”を融合した新しいコワーキングスペース 『Workspace&Bar 56』



出典:PR TIMES(株式会社Respectify)

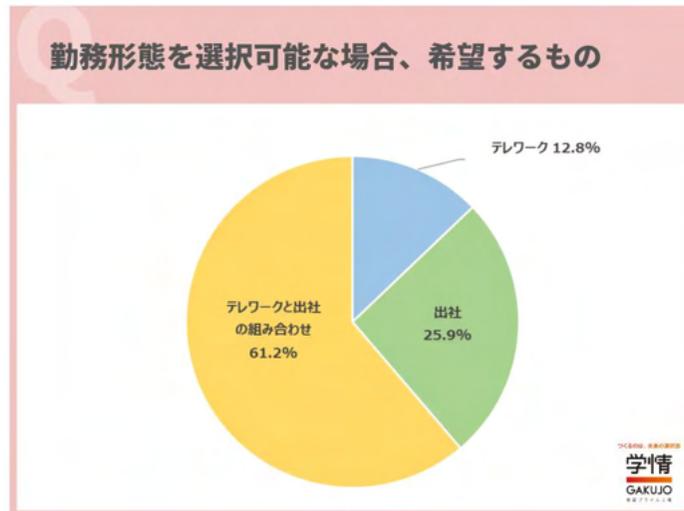
働き方の選択肢はライフスタイルにも変化

## テレワークは過渡期にある～経営者間での論争も絶えない～

### ■ 様々な働き方で追及する『働きやすさ』とは？

- 現在の勤務形態は『出社』が8割を超えているが、希望する勤務形態は『テレワークと出社の組み合わせ』が最多
- 東京都内企業のテレワーク導入率は約20%だが、米国では従業員の約43%がオフサイト(オフィス外)で働いている
- 導入するメリットはあるが中々簡単ではない(職場風土の醸成、経費コスト増、オフィス外でのモラルやセキュリティなど)
- 業種・業界(特に運輸業、建設業、製造業、教育業、接客業、福祉業)の特質による導入格差が発生してしまう。  
⇒比較的検討が容易な営業職などに比べ、現場で体を動かす必要がある業種には物理的にも導入が難しい場面が多い

### ■ 20代のビジネスパーソンが希望する勤務形態



出典:PR TIMES(株式会社学情)

### ■ AI活用によるリモート接客システムの導入が増えている



出典:PR TIMES(株式会社kiwami)

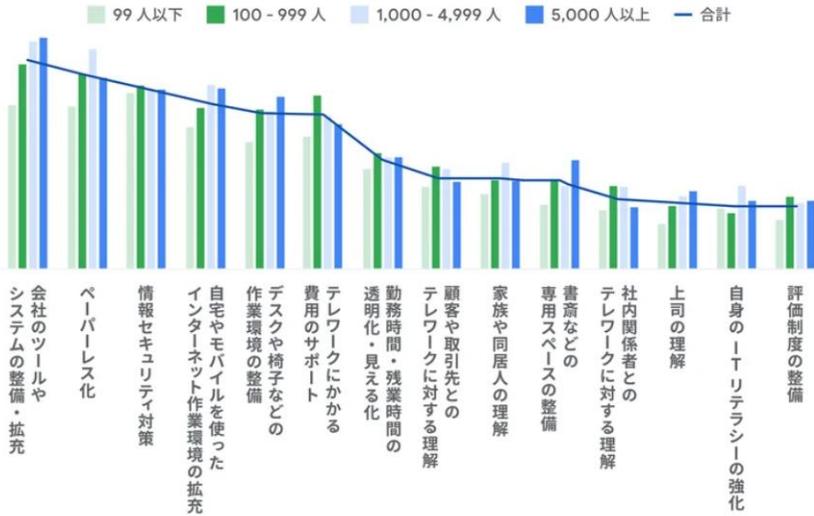
働き方の多様化は結果次第で変化が続くと考えられる

# 多数の職種で多様なワークスタイルへと変化している

## ■ 最適な仕事時間を作る(ワーク・イン・ライフの考え)

- 将来的にはどの業種も自分に合った仕事のやり方や進め方を選べる体制の導入や風土が企業的にも社会的にも浸透してほしい。  
⇒企業だけでなく社会的に許容が広がれば、オフサイト(カフェなど)で仕事をする際のモラルも自然と身についていくと考える
- 理想は飲食店やコワーキングスペースを利用する際の費用を会社が持ってくれると個人としても利用しやすい！  
出社することが必ずしも悪ではなく、出社とテレワークを組み合わせたハイブリッドワークが基本となれば両メリットが獲得可能！
- 地方の強みを生かしたワーケーションも積極的に実施することで社員の士気向上だけでなく、地方創生にもつながる

## ■ テレワークを継続するにあたり、必要だと思うこと



出典:Think with Google

## ■ 富山県魚津市との協業により生まれた『魚(ウオ)ケーション』



出典: PR TIMES(シースリーレーヴ株式会社)

最大限の効果を発揮するための多様なワークスタイルであることを忘れてはならない

## ■ 参照・引用資料

- 厚生労働省, 「令和3年版過労死等防止対策白書」, 2024年9月18日 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/karoushi/21/index.html>)
- プラス株式会社ファニチャーカンパニー, 「職場の居心地WEB調査」, 2024年9月18日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000106100.html>)
- 株式会社ワンズマインド, 「テレワークの導入実施状況についてのアンケート」, 2024年9月18日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000100813.html>)
- 株式会社Respectify, 「Workspace & Bar 56」, \*\*\*\*年\*\*月\*\*日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000149097.html>)
- 株式会社学情, 「希望する勤務形態は「テレワークと出社の組み合わせ」が61.2%で最多。」, 2024年9月18日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001258.000013485.html>)
- 株式会社kiwami, 「マックスバリュ、kiwamiのバーチャル店員にてデジタルサービスカウンターを追加導入！」, 2024年9月18日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000048.000052694.html>)
- 小林 伸一郎/Think with Google, 「テレワークで「生産性が上がった」のはどんな人、企業?: 3000 人に聞いた今・これからの働き方」, 2024年9月18日 ([https://www.thinkwithgoogle.com/intl/ja-jp/consumer-insights/consumer-trends/covid-19-11/#:~:text="](https://www.thinkwithgoogle.com/intl/ja-jp/consumer-insights/consumer-trends/covid-19-11/#:~:text=))
- シースリーレーヴ株式会社, 「魚津市との地域協業で実現した水族館の新たな利活用。水族館でテレワーク! 「魚(ウオ)ケーション」」, 2024年9月18日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000110.000034517.html>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電気のコンシェルジュ

**DENKOSHA**

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。